

Japan Railfan Club

鉄道友の会 福井支部報

轍

～わ だ ち～



(▲2016年10月10日 福井鉄道 北府駅 撮影 森家 和治)  
福井鉄道 「感謝祭」開催！

2016.11月号

No.169

福井支部 ホームページアドレス

URL [http://www.geocities.jp/railfan\\_fukui/](http://www.geocities.jp/railfan_fukui/)

# 『ふくいの鉄道160年』こぼれ話 (6)

渡邊 誠

## 第4章 第2次私鉄ブームと小浜線

### — 駅名にまつわる疑問を何点か —

#### [1] 鯖浦線越前平井駅 -大正15年- ~「へい」か「へいい」か~

大正15年(1936)10月1日に鯖浦線が東鯖江-佐々生間で開業したとき、中間に神明、越前平井、川去、西田中の4駅が置かれた。

このうち越前平井だが、官報によると、「ゑちぜんへいゐ」で認可が下りている(資料1)。

○ 通 運

● 地方鐵道運輸開始 福井縣今立郡鯖江町東小路二十一番地ノ一 鯖浦電氣鐵道株式會社所屬鐵道東鯖江(佐々生間五哩九分本月一日ヨリ運輸營業開始ノ旨届出アリタリ 其哩程左ノ如シ(鐵道省)

駅名	所在地	哩程
東鯖江	福井縣今立郡新鯖江村	一哩一分
神明	同縣同郡神明村	一哩一分
越前平井	同縣丹生郡吉川村	一哩一分
川去	同縣同郡同村	一哩一分
西田中	同縣同郡朝日村	一哩一分
佐々生	同縣同郡同村	一哩一分

資料-1 官報 大正15年10月6日付け  
国立国会図書館デジタル化資料

一方、廃線跡を扱った雑誌・書籍などでは「えちぜんへい」としているものがある。むしろ「へいい」のほうが少ない。図書館でちょっと手に取ってみただけでも、すぐに「へい」が3冊や4冊は出てくる。たとえば以下のような書籍がそれである(資料2)。

- 『鉄道廃線跡を歩くIV』宮脇俊三 1997 JTBパブリッシング
- 『消えた轍3 ローカル私鉄廃線探訪 甲信越・東海・北陸』寺田裕一 2006 ネコ・パブリッシング

『私鉄の廃線跡を歩くIII』寺田裕一 2008 JTBパブリッシング

『新鉄道廃線跡を歩く3北陸・信州・東海編』今尾恵介 2010 JTBパブリッシング

鯖浦線電車は、水落駅本屋前の1番線を発着した。1番線の先が鳥島の福武線ホームで、武生方には数本の留置線があった。水落を発車すると、すぐに半径110mの急曲線で右に折れ、道路橋をくぐって進路を西に変え、国鉄鯖江からの線路が左方向から合流した、旧水落信号場を通過した。家並みが途切れると穀倉地帯を一直線に進み、日野川を渡って築堤を下ると越前平井に着いた。

資料-2 『私鉄の廃線跡を歩くIII(北陸・上越・近畿)編』寺田裕一 2008年 JTBパブリッシング

これだけ多くの書が平井とするのは、単なる誤記・誤植ではないのではないか、何か理由があるのではないかと、探究心が沸いてくる。

大正15年10月1日付け『福井新聞』に、試運転に添乗した記者のレポートがあり、マイクログラムで不鮮明ながらも平井とルビが振られているように見える。

平井集落の歴史を調べた見た。

『日本歴史地名大系18・福井県の地名』(昭和56年 平凡社)や『角川日本地名大辞典18・福井県』(平成元年 角川書店)などによると、「慶長国絵図」で丹生北郡に「へい村」と記され、明治の初めに至るまでずっと越前国丹生郡平井村であった。明治22年(1889)の町村制施行で福井県丹生郡吉川村平井になり、昭和21年(1946)の現代かなづかい施行で福井県丹生郡吉川村平井となった。さらに昭和30年(1950)の市制施行で今度は福井県鯖江市平井町に変わってしまった。

このような歴史的経緯であるが、鯖浦線が開通した大正末期では平井であり、これを昭和61年(1986)改定の現代仮名遣いにしたが

ってルビを振るなら平井となるはずである。

開業前に官庁へ届出て認可を受けたのは、確かに平井であったが、開業後の実態は平井だったのではないか、そんな疑問が沸いてくる。

実はこの件に関し、校正の段階で編集委員各位とかなり論争したのだが、筆者も確たる典拠を示すことができなかった。

今あらためて見直してみると、『新鉄道廃線跡を歩く3北陸・信州・東海編』（今尾恵介編 2010 JTBパブリッシング）が大きなヒントを与えてくれた。

同書の巻末に石野哲編「国鉄・私鉄の廃線停車場一欄」があり、そこに「原文は『えちぜんへいゐ』だが『えちぜんへい』が正しい」との意が記されている（資料-3）。ここでの原文とは「停車場一欄」昭和9年版（1934.12.15現在）の内容」としている。原文より優先した理由は、

1970年頃筆者が私鉄全線走破実行の際の駅名票手書きメモをソースとした。（中略）原典がおかしい場合も訂正せず、[原文]と付記して痕跡を残した。

とのことである。つまり、書類よりも現場を優先したというわけだ。

5306		せいほ 鯖浦電気鉄道～福井鉄道（鯖浦線）	
53061	T15(1926)1001開業	鯖浦電気鉄道	東鯖江～佐々生 9.43km
	S03(1928)1108開業	鯖浦電気鉄道	佐々生～織田 9.37km
	S04(1929)0401開業	鯖浦電気鉄道	鯖江～東鯖江 0.56km
53042	S20(1945)0801合併	福井鉄道	
	S34(1959)0720開業	福井鉄道	水落～水落部(福武線との連絡線) 0.3km
	S37(1962)0125廃止	福井鉄道	鯖江～東鯖江～水落部 -2.4km
	S47(1972)1012廃止	福井鉄道	西田中～織田 -1.8km
	S48(1973)0929廃止	福井鉄道	水落～西田中 -5.3km
0.0	鯖江	きばえ	S04(1929)0401 新鯖江村東鯖江 鯖江市
0.4	東鯖江	ひがしきばえ	T15(1926)1001 新鯖江村東鯖江 鯖江市
2.1	神明	しんめい	T15(1926)1001 神明村水落 鯖江市
2.4	水落部	みずおち	S34(1959)0720 鯖江市
3.9	越前平井	えちぜんへい	T15(1926)1001 吉川村平井 鯖江市
5.6	川去	かわさり	T15(1926)1001 吉川村持明寺 鯖江市
7.5	西田中	にしたなか	T15(1926)1001 朝日村朝日 越前町
9.9	佐々生	ささう	T15(1926)1001 朝日村佐々生 越前町
11.9	陶ノ谷	すえのたに	S03(1928)1108 宮崎村脚口 越前町
14.5	壺津	かじづ	S03(1928)1108 宮崎村壺津 越前町
15.7	下江波	しもえなみ	S03(1928)1108 宮崎村江波 越前町
16.6	江波	えなみ	S03(1928)1108 宮崎村江波 越前町
18.2	矢倉	やぐら	S03(1928)1108 織田村下河原 越前町
19.2	織田	おた	S03(1928)1108 織田村織田 越前町
0.0	水落部	みずおち	S34(1959)0720 鯖江市
0.3	水落部	みずおち	S34(1959)0720 鯖江市

資料-3 『新鉄道廃線跡を歩く3 北陸・信州・東海編』 今尾恵介編 2008年 JTBパブリッシング P215 『国鉄・私鉄の廃線停車場一覧』 石野哲



写真-1 越前平井駅 昭和48年3月18日 木製の駅名標に注視

写真提供 愛知県 田中義人様

そこで今度は当時の駅名標を写した写真がどこかにないか探してみることにした。あった、あった。昭和48年(1973)撮影の写真が。インターネットとは便利なものだ。早速、管理者に連絡を取って転載許可をいただいたのが写真-1と写真-2である。

筆者は編集長に遠慮して、むやみやたらと写真を大きくしてスペースを稼ぐことはしない主義なのだが、今回はことの性質上、ページ幅いっぱいに掲載させていただくことをお許し願いたい。

柱にある縦書きのホーロー製駅名板は「えちぜんへい<sup>い</sup>」の仮名遣いなので、戦後のものであるろう。

ローマ字が何と書いてあるのか大いに気になるどころだが、残念ながら途中で切れてしまっている。まあ読めたとしてもそんなに古いものでもなさそうなので、確証にはならないだろう。

雪囲いか板が当てられた窓(戸?)の上にある木製の駅名板を見ていただきたい。歴史的仮名遣い、しかも右横書きされていることから見て戦前のもの、おそらく開業時からのものであろう。そこには「えちぜんへ<sup>ゐ</sup>」とあり、あとから「い」の字を字間に小さく付け足してあるのが読み取れるだろうか。コピーのコピーでわかりにくいかとは思いますが、見る人によっては落書きとしか考えないこともあるだろう。

ゑ、へんぜちゑ  
井平前越

やはり、開業後しばらくの実態は平井であったが、あるとき官庁認可書類と異なることに気づき、平井に改めたと結論づけて間違いはないであろう。あるときとはいつか、開業



写真-2 越前平井駅に停まるモハ160 昭和48年3月18日  
写真提供 愛知県 田中義人様



写真-3 現在の平井駅跡 平成28年9月16日 筆者撮影  
からほどなくか戦後になってからか、そこまでは分からない。

とにかく、看板をきちんと書き直しておけば後の世にこれほど大きな騒動を産むことにはならなかったわけだが、小さな字を付け足すことでお茶を濁した結果が、平成の今日まで平井と平井が両立することになった、唯一の理由であろう。

## 〔2〕福武線福井市内各駅 -昭和8年-

～ 大河ドラマ「真田丸」との意外な縁 ～  
福武線を紹介した雑誌・書籍は多く出版されているが、開業年に関しては、

大正13年に武生新-中央(現神明)間が開業し、14年には中央-福井新間も開業して、福井武生間は高速電車(当時の汽車に比して)で結ばれることになった。(『全国鉄道事情大研究 北陸篇①』川島令三 平成7年 草思社 P118) などとしているものがほとんどのようだ。

また、軌道線開通後の駅名に関しては、  
 (鉄軌分界点)-木田四ツ辻-藤島神社前-毛屋  
 町-大名町-福井駅前。(『日本鉄道地図帳6』今  
 尾恵介 平成20年 新潮社 P24)  
 の5駅(停留場)だったとするのが、言わば定説  
 となっている。

**福井新駅** まず「福井新」駅に関して見て  
 みる。

大正14年(1925)8月6日付官報によると、7  
 月26日に延長開業した区間の終着駅は福井  
 新ではなく「福井市」となっている(資料4)。  
 さらに、開業から半年少々過ぎた大正15年4  
 月訂補の時刻表では、福井新となっている。  
 この時刻表は本書44ページに掲載した。

この時代の福井市域は今よりはとても狭  
 く、北は越前電鉄福井口駅の手前、南はちよ  
 うどこのあたりが市境であった。福井市内に  
 含まれるであろうとして申請したら、市内で  
 はなかったことが分かり、あわてて駅名を変  
 更した・・・そんな単純な理由でもなさそう

だが、とにかく最初から福井新ではなかった  
 というのである。

**軌道線の駅名と駅数** 次に軌道線開通時の  
 駅名と駅数について、昭和8年(1933)10月3  
 日付『福井新聞』と同月11日付『大阪朝日  
 新聞』から、駅名を拾ってみる。

福井新聞	大阪朝日新聞
木田四ツ辻	木田四ツ辻
藤島神社入口	藤島神社口 (毛矢町舊丸三工場敷地前)
考頭寺口(毛矢町四ツ辻)	考頭寺口(毛矢四ツ辻)
幸橋(舊左内町入り口)	幸橋(舊左内町入り口)
大名町四ツ辻	大名町
縣廳入口(だるま屋前)	縣廳前
福井驛	福井驛前

両紙で駅名に若干の相違はあるが、鉄軌分  
 界点-足羽川間で4駅、大名町-駅前間で3駅  
 の合計7駅あることは変わらない。『大阪朝  
 日新聞』はさらに、このとき福井新駅を赤十  
 字支部病院前まで382m武生寄りに後退さ  
 せ、純延長区間1702mと合わせて2084mを  
 「市街線」と称している。2084mで7駅、平  
 均300m弱ごとに停まる勘定になる。

のちにいうヒゲ線区間で2駅あったことも  
 意外だが、それにもまして駅名にまでなる考  
 頭寺とはどのようなお寺なのだろうか。現在  
 の地図で見ると、公園口電停のある交差点を  
 西へ400mほど進むと足羽山をくぐるトンネ  
 ルになる。そのトンネル入り口の右脇に考頭  
 寺がある。戦災か震災後に引っ越ししたこと  
 も考えられるので、戦前昭和8年の市街地図  
 (『福井市史資料編別巻 地図・絵図』所収)も当た  
 ってみたが、やはり同じ場所にあった。それ  
 にしても400mも離れているのに駅名に取り上  
 げられるということは、それなりの由緒ある

官報 第三八八六號 大正十四年八月六日(木曜)

駅名	所在地	哩	程
兵營	(既設驛) 福井縣今立郡 西島羽	兵營、西島羽間	一〇
西島羽	同縣足羽郡麻生村今市	西島羽、浅水間	二〇
浅水	同縣同郡六條	浅水、江端間	一〇
江端	同縣同郡木田	江端、花堂間	一〇
花堂	同縣同郡木田	花堂、福井市間	〇六
福井市	同縣同郡木田		

●地方鐵道運輸開始 福武電氣鐵道株式會社  
 所屬鐵道兵營福井市間六哩去月二十六日ヨリ運  
 營開始ノ旨届出アリタリ其哩程左ノ如シニ鐵  
 道官

資料-4 官報 大正15年10月6日付け  
 国立国会図書館デジタル化資料



こまつ  
古利なのだろう。

『[国立史料館本] 福井県管下越前国足羽郡寺院明細帳』(平成16年 県立図書館制作)や『福井・地理地名地図の謎』(内池久貴 平成27年 実業之日本社)などよると、考願寺は初代福井藩主・結城秀康の菩提寺であり、また大坂夏の陣で真田幸村(信繁)を討ち取った福井藩2代藩主松平忠直の家臣・西尾仁左衛門宗次の菩提寺でもある。

大手柄をたてた仁左衛門は、幸村の首を福井に持ち帰り、西尾家の菩提寺である考願寺に埋め、首塚として供養した。首塚にはしやく笏だにいし谷石製の地藏菩薩立像が安置され、これがのちに「真田地蔵」と呼ばれるようになった。

現在この真田地蔵は福井市立郷土歴史博物館に収蔵され、同館にはほかに仁左衛門が幸村を討ち取った際の戦利品として持ち帰った「六十二間小星兜」や「采配」さいはい、「薙刀」なぎなたなども展示されている。

なお、仁左衛門が真田幸村(信繁)を一騎打ちで討ち取ったというのは、福井藩の史書『国事叢記』に書かれている話であり、異説も複数あることを付記しておく。

今年の大河ドラマ「真田丸」もいよいよ佳境に入ってきたが、松平忠直や西尾仁左衛門がどのように描かれるのか楽しみであると同時に、たけふ菊人形以外にも、福武線と大河ドラマにつながりがあるのは新鮮であった。

[3] 越美北線越前花堂駅 -昭和35年-  
~「はなんど」か「はなんどう」か~  
時代は下るが昭和35年(1960)12月、越美北線が開通した。開通時から昭和40年頃までの交通公社版時刻表では、難読駅名として花堂と勝原が取り上げられている(資料-5)。

キロ程	駅名	111D	113D	115D	117D	119D	121D	123D	125D	127D	129D
0.0	福井発	615	750	802	912	1019	1232	1519	1611	1746	2005
2.6	越前花堂	621	750	806	912	1024	1232	1528	1615	1750	2009
4.9	六ヶ谷	625	750	810	912	1027	1232	1532	1619	1754	2013
8.3	越前東郷	630	740	815	922	1032	1242	1537	1624	1800	2018
10.9	一乗谷	634	...	819	...	1036	...	1536	1624	1800	2018
15.2	市	641	...	825	...	1042	1251	1542	1634	1811	2022
17.2	小和清水	645	...	829	...	1046	...	1546	1638	1811	2022
20.1	小美	654	...	836	938	1051	1258	1551	1644	1825	2037
22.1	越前東郷	657	...	838	...	1055	...	1554	1647	1827	2041
24.8	越前大野	702	...	843	...	1100	1306	1559	1662	1832	2046
27.0	計	706	...	847	...	1104	...	1602	1666	1836	2050
30.2	牛ヶ原	713	...	854	...	1110	...	1610	1703	1842	2056
34.0	越前大野	719	...	859	957	1115	1318	1615	1708	1900	2101
38.3	越前富田	724	...	...	...	...	...	1624	1714	1905	...
41.4	下唯野	729	...	...	...	...	1329	...	1719	1910	...
42.4	柿ヶ島	732	...	...	...	...	...	...	1721	1913	...
44.9	勝原着	737	...	...	...	...	...	...	1726	1918	...
キロ程	駅名	112D	114D	116D	118D	120D	122D	124D	126D	128D	130D
0.0	勝原発	...	...	754	...	...	...	1545	...	1744	1967
2.5	柿ヶ島	...	...	758	...	...	...	1547	...	1748	2001
3.5	下唯野	...	...	800	...	...	...	1549	...	1750	2005
5.6	越前富田	...	...	806	...	...	...	1554	...	1755	2008
10.9	越前大野	651	...	811	919	1028	1235	1400	1620	1801	2014
14.7	牛ヶ原	636	...	816	...	1033	1240	...	1625	1806	2019
17.9	計	642	...	821	...	1038	1245	...	1630	1811	2024
20.1	越前大野	645	...	825	...	1042	1249	...	1634	1815	2028
22.8	越前東郷	649	...	829	...	1046	1253	...	1638	1819	2032
24.8	美	655	...	836	957	1052	1259	...	1645	1826	2039
27.7	小和清水	658	...	841	...	1057	1301	1415	1646	1827	2042
29.7	市	662	...	846	...	1101	1311	1425	1649	1828	2046
34.0	一乗谷	708	...	851	...	1107	1316	...	1655	1832	2046
36.6	越前東郷	712	745	856	952	1111	1325	1452	1705	1842	2056
40.0	六ヶ谷	716	749	859	...	1115	1328	...	1708	1847	2101
42.3	越前花堂	720	755	903	...	1119	1332	...	1712	1851	2105
44.9	福井着	725	758	908	1005	1124	1337	1442	1716	1856	2110

資料-5 『時刻表 昭和38年4月号』日本交通公社  
難読駅名「はなんど」

駅名	126D	128D	130D	132D	134D	136D	138D	140D	142D	駅名
越前花堂	750	...	1048	...	1356	...	1751	1959	かどはら	
柿ヶ島	754	...	1052	...	1400	...	1755	2005	かどがしま	
下唯野	756	...	1054	...	1402	...	1757	2005	しもいの	
越前富田	801	...	1059	...	1407	...	1802	2010	えちぜんちだ	
越前大野	804	...	...	...	1410	...	1805	2013	えちぜんちだ	
牛ヶ原	719	841	949	1105	1249	1415	1619	1810	2018	えちぜんおの
計	724	846	...	1110	1254	...	1624	1815	2025	うしがはら
越前大野	729	851	...	1115	1259	...	1629	1821	2028	はかりいし
越前東郷	733	855	...	1119	1305	...	1633	1824	2032	おんあみや
越前東郷	737	859	...	1123	1307	...	1637	1828	2036	えちぜんやくし
美	740	905	1010	1127	1310	1430	1640	1832	2039	みやま
小和清水	745	908	...	1131	1315	...	1645	1837	2044	こわしやうず
市	749	912	...	1135	1319	1458	1649	1840	2048	いちのみ
越前富田	752	915	...	...	1322	...	1645	1843	...	えちぜんちだ
一乗谷	757	919	...	1141	1326	...	1655	1848	2054	いちじやうだ
越前東郷	802	925	1025	1145	1330	1447	1659	1852	2058	かとうどう
足	806	927	...	...	1335	...	1655	1852	...	あすか
越前花堂	809	930	...	1151	1336	...	1704	1858	2102	かどがしま
福井着	812	933	...	1156	1340	...	1708	1902	2106	はなんどう
福井着	817	938	1035	1202	1345	1458	1712	1906	2111	はくい

資料-6 『時刻表 昭和41年4月号』日本交通公社  
「はなんどう」に変わっている

勝原は「カツハラ」と読みそうなので、難読駅名とすることもまだ分かるが、花堂が「ハナド」であることは意外であった。

福武線の花堂は、資料-4)に歴史的仮名遣いで「はなんどう」とある。国鉄は先輩格の私鉄とは違う読みを採用したことになる。

その一方で、同書も昭和41年頃になると、「はなんどう」に改められ、難読駅名からも外している(資料-6)。最初が誤記・誤植を見逃したのだとしても、6年間も訂正されな

ったとは考えにくい。これはやはり国鉄は当初「はなんど」と意識していたと判断して間違いはなかろう。

とはいえ、時刻表以外に「はなんど」としている資料が全く見つからないのである。例えば、国土地理院2.5万分の1地形図の昭和37年4月30日発行版でも「えちぜんはなんどう」となっている。

この件に関し、北陸地方の列車ダイヤの変遷に造詣が深い元金沢駅長谷口昭夫氏に、本書出版後に伺ってみた。当時の時刻表で難読駅名とされていることは認められた上で、その理由までは分からないとのことであった。

鯖浦線の例ではないが、当時の駅名標を写した写真でもあればはっきりする。どなたか昭和40年以前、できれば30年代のうちに越美北線花堂の駅名標を写した写真をお持ちでないだろうか。

#### 〔4〕雷鳥初列車と『わだち』創刊号

—昭和39年—

～ 創刊号表紙写真は福井駅か金津駅か ～

『わだち』創刊号の表紙は雷鳥初列車で彩られている。大先輩・酒井雅光氏の撮影によるもので、2002M金津(現・芦原温泉)駅とされている。

一方、同じ写真が平成23年(2011)に支部で制作した絵はがきにも採用されたのだが、こちらは福井駅下り富山行となっている。弘法の筆だったとしても、わずか3行の短文を校正で見落とすとは考えにくい。やはり検証されたうえで金津駅ではないと断定されたのだろう。

絵はがきは左側のライトケースが欠けるほど車両のみにトリミングされているが、創刊号ではボンネットの先にわずかながら周辺の風景が写り、跨線橋ももう少し広い範囲まで写っている。これ



写真-4 平成23年支部制作の絵はがき 約50%に縮小



写真-5 酒井雅光氏の昭和40年私製年賀はがき

らから福井駅か金津駅か特定できないだろうか。

ダイヤは上下とも撮影可能時間帯であった。

[下り]	大阪発	福井着/発	金津着/発	富山着
	12:30	15:07/15:08	15:23/15:23	17:15
[上り]	富山発	金津着/発	福井着/発	大阪着
	13:35	15:22/15:22	15:38/15:39	18:20

ヘッドライトが点灯しテールランプは消灯しているように見えることから、この写真は先頭車で間違いはないだろう。福井駅なら下り優等列車は必ず1番ホームに停車したはず。とすると駅ビルが背景になるはずだから、これは違う。百歩譲って上り大阪行きの誤りで2番か3番ホームだったとすると、跨線橋の先に京福駅舎があったわけだが、これは列車の陰に隠れているのだろうか。今のアオッサのあたりはこんな光景？ う～ん。

筆者は田舎者ゆえ金津駅を全く知らない。

◇ ◇ ◇

都合により次回からしばらく休載させていただく。その間にどなたか越美北線花堂と雷鳥初列車の謎を解き明かしていただきたい。